

平成 26 年度 課題研究成果報告書

平成 27 年 3 月 25 日現在

研究種目：課題研究Ⅱ

研究期間：2014 年 ～ 2015 年（1 年間）

研究課題名：作業の習慣化に向けての作業閾値 質問表の開発に関する研究

研究代表者

氏名：澤田辰徳

所属：イムス板橋リハビリテーション病院

会員番号：16198

研究成果の概要：

作業遂行に関するクライアントと作業療法士間のギャップを測定する評価法 Assessment of Client's enablement を開発した。Test-retest により信頼性の検証を行った結果、全ての値において中等度から高度の相関がみられた。また、妥当性の検証は COPM の遂行度および FIM の値で相関を検証した。結果として、共に相関関係が見られ、妥当性が確認された。

助成金額（円）：13,4000

キーワード：作業遂行、(ギャップ)、Assessment of Client's enablement

1. 研究の背景

近年作業療法では、作業の可能化のために対象者の大切な作業を知るようになった。具体的なツールとしては COPM や ADOC、そして生活行為向上マネジメントにおける聞き取りシートが開発され、我が国の臨床でも多く利用されてきている。しかし、臨床でクライアントの大切な作業を聴取し、その作業ができるように介入しても、実生活で習慣化できないことがある。特に、我々は作業療法士が介入中に、実生活の中で習慣的に遂行可能だと判断したのとは裏腹に、実際の実生活の場で習慣的に遂行していないことを経験した¹⁻³⁾。これらは他にも報告されており^{4,5)}、有用な作業療法サービスとして帰結することができないことを示している。熟練作業療法士は面接や普段のコミュニケーションを踏まえたアプローチによりこの事態を回避するであろうが、経験の浅い作業療法士には難しい。

研究当初この問題について、我々は人が作業を遂行するには、感覚閾値のような作業閾値（仮）というものがあると考えていたが、研究を進めるにつれ、作業遂行に関するク

ラientと作業療法士の認識のギャップが問題であると結論した。

我々はこれらのことから、各種面接ツールにより挙げられた作業ニーズに容易に付随でき、作業遂行に関して対象者と作業療法士の考えのギャップが測定できるコミュニケーションツールが有用となるのではないかと考えた。その評価ツールを用いて、大切な作業の遂行のギャップを日々の臨床で問い、その結果を作業療法士および対象者に視覚的にフィードバックできれば、対象者と作業療法のギャップが生じることは無くなり、最終的に大切な作業が実生活の場で習慣的に遂行可能にする一助となると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、作業遂行に関する認識のギャップの評価を開発するとともに信頼性と妥当性を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

研究開始に伴い、作業遂行に関する認識差異の評価 (Assessment of Client's enablement; ACE) を開発した。開発した評価はクライエン

トが COPM や ADOC など で 挙げ た 5 つ ま で の 作 業 に つ い て 現 在 の 心 身 の 状 況 で 日 常 で や る か や ら な い か を 主 観 的 に 測 定 す る . Visual Analog Scale 様 の 横 20 セ ン チ メ ー ト ル の 線 に 垂 直 に 線 を 引 く . 右 に 行 け ば や る , 左 に 行 け ば や ら な い と い う こ と に な る . 測 定 は 作 業 療 法 士 と ク ラ イ エ ン ト が そ れ ぞ れ 行 い , 作 業 療 法 士 の 値 , ク ラ イ エ ン ト の 値 , 両 方 の 差 の 値 (GAP) を ミ リ メ ー ト ル で 測 定 し , 最 終 的 に 結 果 を 共 有 す る も の と し た .

研 究 に 先 立 ち , ヘ ル シ ン キ 宣 言 お よ び 個 人 情 報 保 護 法 に 基 づ い た 研 究 計 画 書 を イ ム ス 板 橋 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院 の 倫 理 委 員 会 に 申 請 し , 承 認 さ れ た .

開 発 し た 評 価 表 の 使 用 に つ い て , MMSE24 点 以 上 な ど の ク ラ イ テ リ ア に 適 合 す る 患 者 お よ び 担 当 作 業 療 法 士 に 対 し て 実 験 に 先 立 ち 書 面 に て 同 意 を 得 た う え で 研 究 を 実 施 し た .

開 発 し た 評 価 に つ い て , test-retest を 行 い , 級 内 相 関 係 数 を 用 い て 信 頼 性 の 検 証 を 行 っ た . ま た , 妥 当 性 の 検 証 は COPM の 遂 行 度 お よ び , ACE で ク ラ イ エ ン ト が 挙 げ た 特 定 の ADL 項 目 と そ れ に 対 応 す る FIM の 値 で 相 関 を 検 証 し た .

4. 研究成果

開 発 し た 評 価 に つ い て 信 頼 性 の 検 証 を 行 っ た 結 果 , 全 て の 値 に お い て 中 等 度 か ら 高 度 の 相 関 が み ら れ , 信 頼 性 が 確 証 さ れ た . ま た , 妥 当 性 の 検 証 は COPM の 遂 行 度 お よ び , ACE で ク ラ イ エ ン ト が 挙 げ た 特 定 の ADL 項 目 と そ れ に 対 応 す る FIM の 値 で 相 関 を 検 証 し た . 結 果 と し て , 共 に 相 関 関 係 が み ら れ , 妥 当 性 が 確 証 さ れ た . 一 方 , COPM の 遂 行 度 は FIM の 値 と 相 関 関 係 は み ら れ な か っ た . こ れ は 海 外 の 報 告 と は 一 致 し な い が ⁶⁾ , 国 内 の 報 告 と は 一 致 し た ^{7,8)} . こ れ ら の こ と か ら , 文 化 的 , 経 験 年 数 な ど の 問 題 は あ る が 作 業 遂 行 の 認 識 に 関 し て は COPM より 検 出 力 が 高 い 可 能 性 が 示 唆 さ れ た .

5. 文献

- 1) 鈴木千恵美, 澤田辰徳: 心身機能の固執から脱し, 役割を担う事で作業が拡大した事例. 第 15 回作業科学セミナー, 2011.
- 2) 澤田辰徳, 林依子, 小澤友恵: できないと思っていた大切な作業が明らかになった事例. 第 2 回訪問リハビリテーション研究大会, 2013.
- 3) 木村奈緒子, 吉野真理子, 澤田辰徳, 小川真寛: 回復期リハビリテーション病棟退院後の作業遂行評価の実態. 第 47 回日本作業療法学会, 2013.
- 4) 岩井信彦, 青柳陽一郎, 白石美佳, 大川あや, 清水裕子, 他: 回復期脳卒中患者の「できる ADL」と「している ADL」の格差—

FIM による評価比較—. 神戸学院総合リハビリテーション研究 2:75-81, 2007.

5) Iwai N, Aoyagi Y, Tokuhisa K, Yamamoto J, Shimada T. The Gaps between Capability ADL and Performance ADL of Stroke Patients in a Convalescent Rehabilitation ward-Based on the Functional Independence Measure. Journal of Physical Therapy Science 23: 333-338, 2011.

6) Pan AW, Chung L, Hsin-Hwei G (1997). Validity of the Canadian Occupational Performance Measure for clients with psychiatric disorders in Taiwan. Occupational Therapy International 10: 269-277.

7) 土田真也: している ADL, 遂行度・満足度から更衣動作の諸側面を考える. 沖縄作業療法研究 6, 1-3, 2014.

8) 後藤進一郎, 糸野咲子, 宗像沙千子, 早川淳子, 小口和代: 急性期脳血管障害者におけるニーズと ADL の比較. 作業療法 27, 363-370, 2008.

6. 論文掲載情報

なし

7. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名: 澤田辰徳

所属: イムス板橋リハビリテーション病院

会員番号: 16198

(2) 共同研究者

氏名: 北橋多恵子

所属: イムス板橋リハビリテーション病院

会員番号: 55804

(3) 共同研究者

氏名: 小瀬綾美

所属: イムス板橋リハビリテーション病院

会員番号: 46391

(4) 共同研究者

氏名: 松井映利香

所属: イムス板橋リハビリテーション病院

会員番号: 45217

(5) 共同研究者

氏名: 入沢健

所属: イムス板橋リハビリテーション病院

会員番号: 51089

(6) 共同研究者

氏名: 唐松友

所属：イムス板橋リハビリテーション病院
会員番号：46179

(7) 共同研究者

氏名：伊賀博紀
所属：イムス板橋リハビリテーション病院
会員番号：61719

(8) 共同研究者

氏名：伊藤泰士
所属：イムス板橋リハビリテーション病院
会員番号：61807